事例紹介①

「自ら考え、共に高め合う授業づくり」

～高等学校における協同学習の実践事例～

■ 県立邑久高等学校

一　はじめに

本校では、入学する生徒が年々多様化している中で、いかに生徒の学力の伸長を図るかが大きな課題となっている。これまでの一斉授業では、黙々とノートをとっている「受け身状態」の生徒の学力が向上したとは、決して言い難い状況があった。

平成二十年、県外の高校の公開授業を見学したことが、協同学習に取り組む大きなきっかけとなり、翌年度には校内に「学力向上プロジェクトチーム」を立ち上げ、この課題解決に向けて本格的に始動した。以後、この組織が中心となり、校内教員研修や研究授業等を実施している。

生徒同士が互恵的な関係を築き、豊かな言語活動を通じて主体的に学ぶ授業を目指して、全教員が日々試行錯誤している。

二　取組の概要

（一）取組のポイント

本校における「学び合い」の取組のポイントは、次の四点である。

◎生徒に学び合いの意味を説明する

「教える者は二度学ぶ」と言われるように、グループメンバーに教えることは、学ぶために最も良い方法であることをしっかり伝える。

◎教員は説明しすぎない

教員に頼ることから脱却し、グループの自主自律を促すことで、「自分の頭で考えることが多くて疲れる」（生徒の感想）授業を目指している。

◎授業の振り返り

◎全ての場面で「学び合い」を取り入れる必要はない

一斉授業の形態が効果的である場合などでは、学び合いを実施していない。教科・科目の特性や授業の進捗状況などを考慮しながら、適切な場面で「学び合い」を取り入れる。

（二）取組の成果

「学び合い」の本格的導入から今年度で三年目を迎え、生徒の評価は概ねよい。「板書を写したり、一人で考えるだけの授業とは異なり、話し合いをし、自分になかった発想や考え方を知ることができた」「日頃あまり話したことのない人とも学び合いの授業で話したり、意見を言い合ったりすることができた」など、生徒自身がコミュニケーションの大切さを実感している。

また、昨年度参加した「高校生『県産材活用』UD整備事業」では、メンバーを四グループに分けて調査研究を行い、生徒が主体的に関わり合いながら研究の成果をまとめ上げ、そのプレゼンテーションが評価されるなど、これまでの取組の成果は着実に表れてきている。一方、教員側も「教材研究が大変だが、教員同士が学び合える機会が増え、そして何よりも生徒の学ぶ姿勢が前向きになった」と、生徒の様子に手応えを感じている。しかしながら、「知識・理解」に課題があることから、授業改善や教材研究の充実を図るなど、教員の更なる取組が求められている。

各教科・科目の特性に合わせて「学び合い」を実践している。
授業の大まかな流れは
①授業のねらいを説明　②個人思考
③グループでのまとめ・発表　④振り返り　である。

1年次生「数学Ⅰ」の授業展開例

1　テーマ　1次不等式
2　ねらい　1次不等式を解くことができる。
3　教材等　教科書(数学Ⅰ)・教科書完成ノート
4　おおまかな流れ
(1) 本時のねらいと具体的な達成目標を板書(① 一斉)
「1次不等式を全員が解くことができるようになる。
(練習○○番が解けるようになる)」
(2) 不等式の解法の説明(① 一斉)
(3) 練習問題を考える(② 個人)
(4) 演習問題の解答、確認と学び合い(③ グループ)
(5) 発展問題にチャレンジ。ミニホワイトボードで解答を共有(③ グループ)
(6) 授業の振り返り(④ 個人)

本校の「学び合い」授業の様子

三　生徒指導上の期待

本校では、この取組を通じて生徒の学力向上はもちろん、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上も期待している。放課後の自習室では、小グループで互いに教え合う様子をよく目にする。

生徒が「協同すること」を学ぶことで、様々な人とどのように関係性を構築していくかを体得するとともに、生徒同士のつながりと関わり合いが深まっていくことを期待している。

（県立邑久高等学校　教諭　荒金　徹）

子どもの声　保護者の声　地域の声

12月のテーマ：「子どもの学びと育ちを支える生徒指導－学び合う授業づくりを中心に－」について

〔子どもから〕「学び合い」で感じたこと

石川　天太

僕が、邑久高校での「学び合い」を経験できて良かった点が二つあります。

一つ目は、学び合うことでコミュニケーション能力が向上したことです。初めはなかなか自分の意見をうまく言えずにいましたが、「学び合い」を重ね、班のメンバーに自分の考えを発表することで、自分の意見を自信をもって相手に伝えられるようになってきました。また、普段あまり話をしたことのなかった人とも、班のメンバーとして意見を交換するうちに打ち解け、いい関係ができました。

コミュニケーション能力は社会に出てからもとても役に立つと思います。そのため「学び合い」はコミュニケーション能力を伸ばすことができ、僕にとってとてもありがたい経験です。

二つ目の良かった点は、学び合うことによって積極的に自分から進んで授業に取り組むようになり、学力が伸びてきたことです。今までの授業では、先生が黒板に公式などを板書したものをただノートに写してそして先生の話を聞くだけという、先生主体の授業でした。そのような授業だとなかなか頭には入らず、分からない部分があってもなかなか先生に質問することができませんでした。

しかし、自分たちで意見を出し合い答えを導きだす生徒主体での「学び合い」では積極的に自分たちで問題に向き合って考えることができ、もし分からない部分があったとしても気軽に友達に聞けます。そのため、頭に入りやすく、学力も入学当初と比べて次第に伸びてきていると実感しています。また、「学び合い」では、自分で解いたやり方以外の解き方や考え方もたくさん知ることができるので、自分自身にあった解き方を見つけることができます。これも学力が伸びる理由の一つだと思います。

僕は、「学び合い」によって楽しく授業を受けられるようになりました。この「学び合い」を大切にし、これからも勉強に励んでいきたいと思います。

（県立邑久高等学校　二年）